

令和4年度 第2回

丹波市地域公共交通活性化協議会  
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覧用

1 開催日時 令和4年10月28日（金） 午後2時00分 開会

2 開催場所 柏原住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
東野正宗	委員	竹内和重	委員
蘆田長門	委員	谷和義	委員
田中康嗣	委員	小松正之	委員[代理出席]
石田光	委員	井上栄純	委員
木寺章	委員	吉見和幸	委員
和田綱木	委員	清水徳幸	委員

委員14名出席

(オブザーバー)

奥藤秀樹（兵庫県交通政策課副課長）

大木玲子（丹波市商工会参事）

4 欠席者 水田節男 委員、小松忠重 委員、田淵弘樹 委員、  
長田貴 委員

## 5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- ① デマンドタクシーの状況分析について
- ② デマンドタクシー利用者及び従事者への感謝状贈呈について
- ③ 路線バスの利用状況について
- ④ 周辺地域から丹波医療センターへの移動手段に係る社会実験について
- ⑤ 丹波市地域公共交通計画について
- ⑥ 福祉による移動施策について
- ⑦ その他

4) 閉 会

(事務局)

只今から、令和4年度第2回丹波市地域公共交通活性化協議会（丹波市地域公共交通会議）を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。  
ここで、資料の確認をさせていただきます。

[事務局より配布資料の確認]

〈事前配布資料〉資料1～6

〈当日配布資料〉

- ・公共交通利用者アンケート仮集計結果概要
- ・公共交通利用者アンケート用紙（鉄道、路線バス、デマンドタクシー）
- ・市民アンケートの実施について（概要、設問）

本日は、令和4年度第2回丹波市地域公共交通活性化協議会の開催ですが、各団体の中で委員が交代された団体がありましたので、新しくお世話になる委員の方につきましては、改めて委嘱をさせていただいております。新しく委員をお世話になる方をご紹介します。

### [委員変更に伴う新委員の紹介]

以降の進行につきましては、会長をお願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。本日はよろしく願いいたします。

先日、三田市の地域交通活性化協議会があり、近日中にグリーンスローモビリティや自動運転の取組みを行われるようです。数年すると丹波市でも何か考えなければならない状況になると思います。JR西日本も地域共生課を創設されたり、バス事業者のウイング神姫の会社名が変わられたり、様々な動きがある中で当協議会においては、社会実験を行いますので、ますます目の離せない時期になっていると思います。

しかし、デマンドタクシー、路線バスをやはり維持・活性化していくことを第一に考えていきたいと思います。

それでは本日の議事について、まず①デマンドタクシーの利用状況分析について、②デマンドタクシー利用者及び従事者への感謝状贈呈について、③路線バスの利用状況について、一括して事務局からご説明をお願いいたします。

[①デマンドタクシーの利用状況分析について説明]

[②デマンドタクシー利用者及び従事者への感謝状贈呈について説明]

[③路線バスの利用状況について説明]

(資料1～3)

(会長)

議事の①～③の説明及び報告でした。これにつきまして、何かご質問等ございますか。

デマンドタクシーについては、復調傾向にあり、これまでのようにたくさん乗っておられる方が多いということより、バランスよく皆さんにご利用いただいているのは、特徴があるのではないかと、少しずつ数年前の状況に戻りつつあるのではないかと、思います。

バスについても復調しております。人の動きが戻りつつあるのではないかと、思います。

デマンドタクシーと路線バスについて何かお気づきのところがあれば、お伺いしたいのですが、タクシー事業者さん何かありますか。

(委員)

事務局から、回復傾向にあるという報告がありましたが、事業者としては、緩やかな回復傾向であり、忙しくなったという実感はありません。しかし、輸送の安全について我々事業者は、同じように努めて参りますので、今後とも温かい目で見えていただきたいと思います。

(会長)

バス事業者さん、よろしくをお願いします。

(委員)

先ほど会長がおっしゃられたとおり、復調傾向にあるのは事実であり、2019年度まではなかなか難しいですが、良い感じで復調の兆しがあります。事務局からお話がありました路線の延伸については、午前の便についてはしっかり乗車いただいております。しかし、午後の便については、今後の課題であると思っております。

(会長)

路線バスの延伸についてですが、やはり通学での利用が多いので、午前の登校には利用できるが午後の下校時間に合わない等、少し課題が考えられるのではないかと思います。その他、何かありますか。

(質問等なし)

ここからは、皆様の意見をしっかりお伺いし、検討させていただきたいと思えます。

一つ目は、周辺地域から丹波医療センターへの移動手段に係る社会実験について、決議をいただき、幾つか協議しなければならないこともありますので、事務局から説明をお願いします。

#### **〔④周辺地域から丹波医療センターへの移動手段に係る社会実験について説明〕**

(資料4-1～6)

(会長)

ありがとうございます。少し難しいお話かと思えます。市島地域の路線バスの社会実験については、協議の場を持っていただいておりますが、ルート案やダイヤ案ができ、これを実際に道路運送法に基づき協議をする予定です。

補足しますと、一つ目は社会実験を行うため、路線を新設することについて協議します。二つ目は、社会実験を令和5年1月31日まで行いますので、社会実験終了後、路線は休止するという協議をします。

少し事務的なところがあり、その辺を確認しながら進めることとなります。それでは何かお聞きしたいことや何か補足を求めたいところがありましたら、事務局にご説明いただきたいと思います。

今回は、まず丹波医療センターまで行きます。利用者が全て丹波医療センターに行くのではなく、市島地域に住んでいる方が、市の中心部に行ったり、新たに統合される学校に行ったりすることも予定しているため、その様子を注視する趣旨の社会実験になります。

(事務局)

昨年度から周辺地域から丹波医療センターへの移動手段について協議をさせていただいております中で、先ほどご説明させていただきましたように、小学校統合の協議が進んでいます。小学校の通学手段は、現在協議中ですので、今後どのようになるのかは統合準備委員会の中で確定していない段階ではありますが、統合後に通学に路線バスを使用する形になったことも想定したルートにさせていただきました。

(会長)

丹波医療センター行きですが、他に3つ4つほど、他の目的がある社会実験になります。それから、警察とも協議してルートを決めています。

(事務局)

当初、送付しておりました資料では自治会の中を抜けるルートを提案させていただきましたが、警察との現場確認でご指導いただいたところ、幅員狭小の道路があり、路線バスを走らせるには少し危険ではないかという意見がありましたので、より広い道路に変更させていただきました。

場所については、市島町上垣と春日町小多利から多利へ抜ける地域です。

当初は自治会の中の市道を運行する予定にしておりましたが、幅員狭小のためバイパス沿いの道路に変更させていただきました。

(会長)

ありがとうございます。大体今の主旨の実験であると、ご理解いただけたかと思います。

何かご質問等、ありますか。

(委員)

資料4-6について補足させていただきます。バス事業者の方から、路線延長の申請がありますが、通常の処理期間であれば、2ヶ月間は期間をいただいております。

関係者の皆様が揃われている中で協議が整えば、証明書を提出したことにより、処理期間が2ヶ月から1ヶ月に短縮できることになっております。本日、協議いただき、実施期間は12月からということで、こちらも処理をさせていただくという形の流れになります。

(会長)

今の状況としては12月から実施しますが、広報等について何かありますか。

(事務局)

協議が整い、決定しましたら当然住民の皆様へ報告をさせていただきたいと思います。具体的には丹波市の広報紙やホームページ、防災行政無線での告知等を、該当地域である市島地域、春日町の春日部地域にチラシを全戸配布し、利用いただくため周知させていただきます。

(会長)

説明にありましたが、バス路線が走ることにより、例えばデマンドタクシーに乗り換えたり、鉄道に乗り換えたりされることはかなり重要であると思います。これについて、データ取り等される予定はありますか。

(事務局)

バス路線についてですが、午前1便、午後1便ですので、例えば朝の便で出かけられ、帰りの便に時間が合わない場合になりますと、別の公共交通機関を使っていただくことが想定されます。その場合は駅や別のバス停で降りていただき、そこから鉄道やデマンドタクシー、普通タクシーを乗り継いでご利用いただくことを考えております。

(会長)

実験ですので、実態をしっかりと示しいただくと、実験終了後に本格的な運行に向けた話にいずれなっていくしますので、よろしくお願ひしたいと思います。その他に何かありますか。

(委員)

この路線バスに乗って途中のバス停で下車することは可能ですか。

(事務局)

はい。路線バスですので、どこで降りていただいても問題ございません。

(会長)

一日に往路1便、復路1便ということですね。日数も毎日運行するのではなく、月、水、金曜日で運行を行います。

それでは、これで議決をとりたいと思います。欠席されている委員もおられますが、ここで議決を取れば成立します。

(事務局)

特に関係がございませ交通事業者さんの中で、本日欠席の鉄道事業者さんにつきましては、事前に調整という形で、このような提案をさせていただきたいということで、一度お示ししました。この件につきましては、特に今回意見等はありませんということ事務局には事前に伺っております。以上です。

(会長)

それでは、協議の決議をとりたいと思います。まず、バス路線を新設することに関してよろしいでしょうか。

(異議なし)

それから、実験終了後、この路線は休止し、バス停は廃止することに関してよろしいでしょうか。

(異議なし)

**【周辺地域から丹波医療センターへの移動手段に係る社会実験の実施に伴うバス路線の新設及び社会実験終了後、この路線を休止しバス停は廃止することについて承認を得た】**

令和4年12月2日から令和5年1月31日まで社会実験を行いますので、皆さんに積極的に利用いただけるよう、様々な方法で広報等をお願いします。

資料4の協議が整ったこととなりますので、証明書等を送付し、手続きを進めていただくようお願いいたします。

(会長)

次に、⑤丹波市地域公共交通計画の策定についてです。現在こちらは法律で策定することが定められており、丹波市でも今年度中の策定を目指しております。調査をしたうえで、内容をこれからの地域公共交通計画に記載することでやっておりました。今回はアンケートについてのみですが、現在市島地域の社会実験の協議等を行っておりましたので、会議日程が当初より早まっていることや、本年度は協議会を多めに開催する予定もあり、来月末の協議会の開催を目途にし、策定についての協議をするため、今月は利用者アンケートの実施状況の確認をして来月に備えていきたいと考えております。公共交通の利用者アンケートについて、集計結果がいくつか出てきておりますので、それについて事務局から説明をお願いします。

## [ ⑤丹波市地域公共交通計画の策定について説明 ]

( 資料：別添交通計画資料 )

(会長)

ありがとうございました。振り返りも含めて確認させていただくと、一つは公共交通を日頃から利用されている方に対するアンケートでこちらは既に発送し、回収も進めているとのことです。日頃公共交通を利用していない人のバイアスがとても少ない、公共交通を利用している人の傾向や意見が反映されたものであると思います。その点を意識しながらご意見等いただければと思います。例えば鉄道は駅まで車で行き、そこから電車を使って移動する方。路線バスは主に学生で通学利用している方。デマンドタクシーについては高齢の方でよく利用されている方。そういった方たちのご意見が集まったものであると言えます。今の時点でもそれなりに回収されていますので、そこまで傾向が変わることはないと思いますが、現時点で回収された回答の傾向をとりまとめたものです。

もう一つが一般的な市民アンケートについて、人の動きを把握するために実施するというものです。回収率が40%程度あれば400件ほど集まってくると考えられますので、交通に対する傾向が恐らくわかるため、こちらも期待したいところです。

市民アンケートについては今後実施予定ですので、利用者アンケート集計後、計画に反映していき、今回は一定の気づきや文言の表現がこれで良いのかをご意見いただき確認し、計画の一部に反映するという趣旨です。何かご意見ありましたら、お伺いしたいと思います、いかがでしょうか。

大きくまとめますと、一つは行政の移動支援策がないと公共交通を無理に利用することはないという傾向があります。私自身が驚いた点が、代替手段として鉄道が利用できないのであれば、自家用車で移動する。路線バスが利用できないのであれば、デマンドタクシーを利用せずに家族や知人に送ってもらおうとする。一方でデマンドタクシーを利用できない場合は、家族や知人の送迎ではなくタクシーを使おうとする。デマンドタクシーの運休日はタクシーを利用できるような施策を考える必要があると思います。路線バスについては主な利用者が学生なので、親が送迎するまたは自転車で通学するという傾向になると考えられます。路線バスについても往路は時間が合ったとしても復路の時間が合わないことについて、どのように対応していくか仕組みを考えなくてはならないと思います。

それから、補助制度の中でどのようにするのか、デマンドタクシーについては乗り継ぎ利用が半数程度あるため、それについての手立てをどうするのか考える必要があると思います。

また、コロナウイルス感染症の影響については『変わらない』という意見が多い傾向にあり、路線バスは通学利用の影響により『増加している』という声もあるので、このような制度面での投資があるかないかも大きい部分であると気づきました。このような所も意識して今後の計画策定に向け、考えていただければと思います。

事業者側からの気づきがあるのではないかとと思うのですが、タクシー事業者やバス事業者側として、利用している方の意見を見て感じられたことをお聞かせいただければと思います、いかがでしょうか。

(委員)

内容は妥当な線かと思いますが、デマンドタクシーの利用状況は通院・買物が7割程度を占めており、帰りの時間を決めておいても、人が関わることには、予想以上に時間がかかる場合や緊急の案件によって遅れが生じることがあるため、路線バスやデマンドタクシーの時間に合わない場合、普通タクシーを利用されるという意見は現場でもよく聞いています。

また、夏場は買物の荷物を持ったまま、各所を回るのが嫌だという意見も多くありました。同様に田舎独特の雰囲気や別の利用者から「どこから乗ったのか」「どこへ行くのか」「何を買ったのか」というような世間話が嫌だという意見もあります。そのため、『デマンドタクシーの運行日はタクシーの利用者も多い』という傾向もあります。

(会長)

デマンドタクシーによる人の移動がある一方で、同調してタクシーでの移動もあるということですね。

路線バスについてはどうでしょうか。

(委員)

『運行頻度・運行本数が少ない』というご意見については、利用者が少ないため本数が増やせない、本数が増やせないから利用者も増やせないという悪循環であると思います。また、行政支援に対する満足度は 100%ということで、事業者側としても行政支援がないと苦しいところですのでありがたく思っております。

ただ調査件数の中で路線バスが一番低かったということで、事業者としてはもう少し数字が欲しかったなとも思います。

(会長)

ありがとうございます。路線バスについては配布した枚数が少ないという点もあると思います。いろいろご意見いただいておりますが、事務局から回答等何かありますか。

(事務局)

アンケートの対象者数につきましては、それぞれの制度利用者であり、路線バスについては母数が少ないことから回収数も少なくなっております。この点についてはバランスがとれておらず申し訳ないと思っておりますが、致し方ないことをご了解いただきたいと思います。今後もう少し返送される分もあると期待しております。

また行政支援の効果が見られることは事務局としても大変ありがたい、やりがいのあることではありますが、行政支援がなければ利用が少なくなることは大変厳しい状況であると認識しております。路線バスにつきましては事業者にもご協力いただき、便数を増やしていただいたり、路線の延伸をしていただいたり取り組みを進める中で利用が増えてきているという実態があります。この傾向を継続し、より充実できれば良いですが、支援がないと上向いていかない点では辛さを感じているところです。

(会長)

ありがとうございます。料金をどうするか、補助をどうするかというのは大事な部分ではありますが、将来的な十年を見越した計画では大変かと思えます。計画づくりという所では、なんでも見直していくというニュアンスを持つこと、例えば待合環境を一つとると、ゴミ箱は誰が設置するのかというような点でそれぞれの役割ごとの課題についてどのように実行するのかというプランが大事になってくると思います。行政には行政の役割が、事業者には事業者の役割が、もちろん市民の方には市民の方の役割があるので、それをしっかり整理することが重要になると思います。その点を意識し整理することで事業計画の形になっていくと思えます。

それからデマンドタクシーで何度も延伸や行先の拡大の意見が出ていますが、それぞれの全体最適についてもしっかり計画に盛り込み、例えば路線バスは通院や通勤通学などを担い、デマンドタクシーは住み慣れた地域ですと生活を維持するための手段を担うなどそれぞれの交通手段の役割をしっかりと整理しながら 10 年単位でどのようなことを行っていくかまた、特にデマンドタクシーのあるべき姿や人が動く交通手段も動くという観点からまず皆さんに動いてもらわないと意味がないということなど、それぞれの交通手段の役割をアンケートの結果を見ながら整理することを心掛けていただきたいと思います。

そのほか何かありましたらお聞きしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(委員)

委員と事務局が重なったような立場での発言となりますが、お許しいただきたいと思えます。私から3点ございます。まず1点目は公共交通利用者のヘビーユーザーからの仮集計結果についてですが、2日前までの集計であるため、十分な内容ではありませんが、分析や結果という所で分析の角度が非常に狭いという気がしております。時間が短い中ですので、さらに深掘りをしていく必要があると考えております。

2点目は今回行われる市民アンケートについて今後利用者をさらに拡大していく意味では大変重要なものになると思えますので、こちらもしっかりと分析を行っていただきたいと思っております。

3点目は今回実施する市民アンケートと既に実施した利用者アンケートがメインデータになると思いますが、丹波市でもWEBアンケートを実施しておりますので、これらとは別にもう少し広げた形で自由なご意見を伺えるようなアンケートが実施できないか、事務局に検討提案させていただいております。できる限り多様な意見を集めるため、サブデータをしっかり押さえていくことが、公共交通計画の中では大きな役割になると思っております。メインとサブに分けさせていただいた理由については、統計学上でWEBアンケートは一人の方が複数の回答をすることができ、現行のアンケートと一緒にすると本来のアンケートの精度が落ちる可能性がありますので、あくまでも参考程度の扱いで広げていくと、今後の計画がさらに充実すると考えられますので、そのような方針で実施させていただきたいと思えます。

(会長)

ありがとうございます。サブデータがあると計画が充実するという、おっしゃるとおりかと思えます。事業者の方々も、交通に関する意見やデータがあればご提供いただくと、アンケートも含め、分析した結果をもとに計画を立てる形になりますので、ご協力いただければ幸いです。

そのほかご意見が無いようでしたら、概ね納得のいく内容でしたので、この内容を基に計画策定を進めていただければという所と、WEBアンケートやサブデータをしっかり整理しながら計画素案が完成することを期待しております。現段階では、次回の協議会が来月末の予定ですので作業が大変かと思えますが、無理のないよう協議内容を反映いただければと思います。

それでは続いて福祉による移動施策についてですが、事務局が健康福祉部に代わりますのでよろしく申し上げます。

#### **[◎福祉による移動施策について説明]**

(資料6)

(会長)

ありがとうございます。令和5年4月から高齢者外出支援事業を見直し、路線バス、デマンドタクシーの乗車券を共通券化する方向で、交通事業者さんと調整していきたいということです。

これに関してご意見ありますか。市の介護保険課の考えとして、タクシー事業者さんやバス事業者さん、また免許返納者の方もありますので警察の方等の協力ができないこととなります。協定を結ぶとなると介護保険課と交通事業者さんとでやりとりしていただくこととなります。

(委員)

警察としても免許返納を推進するため広報等で呼びかけを行っております。免許返納された方で、公共交通機関等を利用される際に運転経歴証明書を提示すると料金を割引するような制度を各自自治体や事業者にご協力いただいております。

(会長)

他にご意見はございませんか。それでは介護保険課で引き続き事務を進めていただきますようお願いいたします。

最後に「その他」になりますが、事務局から次回の会議開催について、お話をいただければと思います。

(事務局)

失礼いたします。交通計画の件に関して、今回のアンケート項目までお示しさせていただいておりますが、今後策定に取りかかる上で素案を作成していき、この会議の中でもお示しして、皆様からご意見を頂戴したいと思っております。

今回社会実験の件もあり、少し前倒しする形になりましたので、公共交通計画については大きく踏み込んで議論いただくことができませんでしたが、次回会議において進めていきたいと思っております。

その中で大変恐縮ですが、公共交通計画策定にあたり、例年より多く会議を開催できればと考えております。会長も言われましたとおり、11月の末頃に第3回の会議を開催させていただきたいと考えております。

もし可能であればこの場で次回日程を調整させていただきたいと思いますが、11月25日金曜日の午後からはいかがでしょうか。時間等詳細については、改めてご連絡させていただきたいと思っております。

(会長)

それでは、その間事務局と調整をさせていただきたいと思っております。

最後に、副会長から閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

本日は長時間慎重に議論いただきありがとうございました。

先ほど事務局からもありましたように、交通計画策定に伴い会議が続きますが、日程調整のうえ会議に出席いただき、議論いただければと思います。